

第16回交歓演奏会【1997年(平成9年)7月8日】いずみホール  
(同志社グリークラブ 関西学院グリークラブ)

第16回 同関交歓演奏会

5th Stage — 合同演奏

男声合唱組曲「富士山」

- I. 作品第壹
- II. 作品第肆
- III. 作品第拾陸
- IV. 作品第拾捌
- V. 作品第貳拾壹

作詩：草野 心平  
作曲・指揮：多田 武彦

5th Stage

男声合唱組曲「富士山」

同関両グリークラブへの恩返し

多田 武彦

1947年、旧制大阪高校に入学し、すぐにコーラス部に入った。そして合唱祭や合唱コンクールに参加してみると、何時も同志社グリークラブと関西学院グリークラブの名演奏に圧倒されていた。

1950年、京都大学に進んでからも合唱を続けた私は、両グリークラブの演奏会に足繁く通い、宗教曲やスピリチュアルや邦人作品の名演に感動し続けた。

これらの名演奏を起点に、今日まで56の男声合唱組曲を作曲することが出来た。

また、恩師清水脩先生(故人)の薫陶や、高雅な詩人の魂のおかげで、日本国中の合唱愛好のかたがたに愛唱していただいた。

その中でも五指に入る「富士山」を、合同演奏のステージで指揮させていただくのは、本当に嬉しい。

清水先生からは、「歌曲や合唱曲を作曲するときには、詩自体にすでに音楽のある詩を厳選し、これに寄り添うように作曲すること。曲を大切にすあまり、詩の音楽を壊してはいけない。ましてや、詩人の了解無しに、勝手に詩を削除したり変更したりするのはもってのほか」と厳しく教示された。

この薫陶を遵守したおかげで、詩人草野心平先生(故人)はよく私に「自分の詩の心や感情の抑揚をよく掴んで作曲してくれているので、大変嬉しい」と喜んでおられた。

練習の過程で、私は、私が学生だった頃に「両グリークラブの名演奏から教えられた基本的な演奏技術」を、現役の諸君に還元させていただいた。

合同ステージでは、若い学生諸君と共に、「富士山をこよなく愛しつづけた詩人の魂」を、心行くまで歌い上げた。